

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Funny-Funny こどもプラス西八王子教室		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日		2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	柳沢運動プログラムを用いた運動あそび+静かな活動(フラッシュカード、読み聞かせ、ビジョントレーニング、脳トレ等)	活動内容は固定化せず、子どもの様子や気持ちに応じて柔軟に対応している。 楽しみながら身体を動かせるよう環境調整をしている。	職員のスキル向上のため、研修や情報共有を積極的に行う。
2	視覚支援と自己選択支援	おやつを駄菓子屋さん形式で予算以内で選択できるように取り組んでいる。 無理強いせず、気持ちを尊重しながら、可能な範囲内で合理的配慮を行っている。 スケジュール表や、メモなど用いて見える化支援を心掛けている。	定期的な研修や事例検討などの共有を図り、質を上げて支援の統一化をしていく。
3	季節や社会とのつながりを感じることができるプログラムを提供 (外出、イベント、制作など) 自立に向けた生活経験ができる	イベントカレンダーの配布。 四季折々のピクニックや高尾山遠足、4教室合同のボーリング大会、調理活動、買い物支援、外食の注文などの様々な経験を通して社会経験のスキルアップを目指している。	公共交通機関を利用するお出かけや、外出場所を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎や業務に追われ、振り返りや共有が十分に取れない日がある	情報共有の方法が口頭中心となり、記録として残りにくい。 送迎時間と支援時間が重なり、職員が分散しているため。	業務の流れを見直し、効率化を進めることで共有の時間を確保する。 グループラインを活用しながら、必要な情報を簡潔に共有できる体制を整えていく。
2	児童数が多い日は教室内が手狭になってしまうことがある	開所当初からの課題である。 一時、建物内の増築化のお話があったが現状難しい。	グループ別活動や、スペースを分けて対応している。 近隣の公園や広場での活動に変更することもある。(天候による)
3	新しい取り組みや研修内容を、日々の支援に落とし込むまでに時間がかかる	実際の支援場面にどう取り入れていくか、具体的なイメージを共有しきれていない。 職員ごとに理解度や実践経験に差がある。	研修後に共有や振り返りの時間を設ける。 支援方法の例や工夫を職員間で共有する。 日々の支援の中で試行しつつ、振り返りを行うことで定着を図る。